

お知らせ

平成28年6月14日  
文化市民局  
(美術館 771-4107)

## 京都市美術館再整備に係る基本設計について

京都市では、平成25年に創立80周年を迎えた京都市美術館を、今後とも国内外の多くの人々を魅了する美術館としていくため、昨年3月に「京都市美術館再整備基本計画」を策定し、再整備に向けた取組を進めてまいりました。

この度、基本計画に掲げる再整備のコンセプトである

- ・ 本館に加え、新館を建設し、**京都の新たなシンボルとなる美術館**を目指す。
- ・ 豊富なコレクションに加え、現代芸術の「今」を発信する**日本を代表する複合型美術館**としての魅力を高める。
- ・ 岡崎地域のポテンシャルを活かしつつ、ギャラリー・アメニティ機能の向上により、**日本有数の集客力がある美術館**を目指す。

に基づき、「京都市美術館再整備工事 基本設計」を取りまとめましたので、お知らせします。

### 1 基本設計の考え方

- (1) 老朽化の進む本館については、全面的な改修による、耐震性能の強化、空調設備・照明設備の全面更新、防火設備の強化など抜本的な展示機能の強化を図るとともに、建物を保存・継承し、将来的に国の文化財指定を目指していく。
- (2) 本館地下については、当初、地下2階を想定していたが、コスト削減等の観点から地下1階とする。これに伴い、基本計画では修繕、活用する方針であった既存収蔵庫棟を解体し、同部分に地下空間も活用しつつ、様々な展示に対応できる新たな展示室と収蔵庫を備えた新館を建設する。
- (3) 岡崎地域の活性化や来館者サービスの更なる向上を図るため、本館西側（正面）地下を増築し、エントランス空間やトイレ、ロビー機能を充実させるとともに、カフェやレストラン、ミュージアムショップなどを整備する。

### 2 基本設計の概要（別紙）

- (1) 基本設計受託者  
青木淳・西澤徹夫設計共同体
- (2) 施設概要  
敷地面積 25,569㎡  
構造 本館：鉄筋コンクリート造、一部SRC造、鉄骨造  
新館：鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造

階 数 地上2階地下1階建て  
 建築面積 約8,441㎡  
 延べ床面積 約19,590㎡  
 建物高さ 約22m

(3) 整備内容

	現状	基本設計
延床面積	11,907㎡ (本館 9,349㎡) 収蔵庫棟 1,790㎡ 事務所棟 768㎡)	約19,590㎡ (本館 約11,610㎡) 新館 約7,210㎡ 附属棟(現事務所棟) 768㎡)
主な機能		
展示諸室	5,039㎡	約6,875㎡ (+約1,836㎡)
収蔵諸室	944㎡	約1,874㎡ (+約930㎡)
カフェ, レストラン, ショップ等	—	約1,304㎡ (+約1,304㎡)

(4) 概算工事費

約100億円

(5) その他

ア バリアフリーへの配慮等

- ・ 車いす対応エレベーターの増設(現行1台 → 再整備後3台)
- ・ トイレの充実に加え, オストメイト対応多目的トイレの設置
- ・ 段差のない円滑かつ快適な移動空間の確保(スロープ設置等)

イ 環境への配慮

- ・ 再生可能エネルギー(太陽光発電設備)の導入
- ・ 積極的な省エネルギー対策(サッシ・外壁面・屋上の断熱化, LED照明等の省エネ機器の採用, 高効率空調システムの導入)
- ・ 屋上緑化及び既存樹木を生かした緑化計画

3 今後の事業スケジュール(予定)

平成28年 7月 実施設計・施工一括発注に係る入札公告  
 9月 実施設計・施工一括発注に係る落札者決定・仮契約  
 11月市会 実施設計・工事契約議案提案  
 12月 実施設計・工事に着手(合計31箇月間)  
 平成31年 7月末 しゅん工

※ 室内環境の安定に必要な期間, 開館準備期間を経て, 平成31年度内のリニューアルオープンを目指す。